

議 事 要 旨

会 議 の 名 称	第1回 東金市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会	
開 催 日 時	令和3年10月25日(月) 午後1時30分～	
開 催 場 所	東金市役所第1委員会室	
委 員 長 氏 名	上野高志	
出席者(委員)氏名	竹内弥彦、飯田宏行、柿栖米次、鎗田敏光、市川浩、三枝めぐみ、齊藤操、今関貞夫、松戸誠、遠山みつ子、高橋京子、真行寺洋男、神山英雄	
欠席者(委員)氏名	仲村恵子	
事 務 局	東金市 鹿間市長、柴、行方、布留川、柴田 東金市社会福祉協議会 北田、石井、宮田	
その他の出席者	無し	
会 議 事 項	1. 議 題	会 議 事 項
	1 開会 2 市長あいさつ 3 委嘱状交付・委員紹介 4 委員長・副委員長の選任について 5 委員長あいさつ 6 議事 (1) 報告事項 ① 東金市第3次地域福祉計画・地域福祉活動計画策定の方針について ② 現行計画における実績報告について ③ 市民アンケート及び地区別アンケートの調査結果について (2) 協議事項 ① 報告事項を踏まえた第3次計画の方向性について ② 第3次計画の基本理念及び基本方針について ③ 第3次計画の体系図について 7 その他 8 閉会	別紙のとおり
議 事 の 経 過	別紙のとおり	
会 議 資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回東金市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会次第 ・ 東金市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会設置要綱 ・ 東金市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会委員名簿 ・ 東金市第3次地域福祉計画・地域福祉活動計画策定方針 ・ 東金市第2次地域福祉計画・地域福祉活動計画の実績 ・ 東金市第3次地域福祉計画・地域福祉活動計画策定のための市民アンケート調査結果概要 	

第1回 東金市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会 議事要旨

	<ul style="list-style-type: none">・東金市第3次地域福祉計画・地域福祉活動計画策定のための地区別アンケート調査結果概要・東金市第3次地域福祉計画・地域福祉活動計画の方向性・第3次計画の基本理念と基本方針・地域福祉計画の施策体系・地域福祉活動計画の施策体系・東金市地域福祉計画・地域福祉活動計画（平成29年3月策定）
--	---

議 事 要 旨

発 言 者	議題・発言要旨及び決定事項
事務局	〔開会〕 進行 〔資料確認〕
鹿間市長	〔市長あいさつ〕
事務局	〔委嘱状交付・委員紹介〕 〔事務局紹介〕 〔委員長、副委員長選任〕 本委員会は設置要綱第5条第2項の規定によりまして、委員長及び副委員長は委員の互選により選出することとなっております。 そのため、委員の皆様による互選をお願いしたいと思いますが、特にないようでしたら、事務局一任とさせていただいてもよろしいでしょうか。委員長は上野委員、副委員長は飯田委員にお願いさせて頂きたいと思いますが、いかがでしょうか。
委員	〔「異議なし」の拍手あり〕
事務局	ご異議ございませんようですので、委員長に上野委員、副委員長に飯田委員とさせていただきます。 〔委員長挨拶〕
委員長	ただいま委員長に選任いただきました東金市議会の上野でございます。先ほどの市長あいさつにもありましたが、地域福祉計画・地域福祉活動計画は、福祉の総合的な計画ということでございますので、委員の皆様方から、それぞれのお立場で、様々な御意見をいただいてまいりたいと思います。その結果として、この計画が、東金らしい、独自色のある計画になればいいと考えております。皆様からのお力添えをいただきながら、努めてまいりますので、御協力のほどよろしくお願いします。 〔設置要綱第6条第1項により委員長が議事進行〕
委員長	では、議事に入ります。 次第に沿って、事務局より（1）報告事項の説明をお願いします。

事務局	<p>報告事項となりますので、一括して説明を受けたのち、質疑の時間を設けたいと思います。</p> <p>[資料2-1から2-4を説明]</p>
委員長	<p>ただいま、事務局より報告事項ということで3点報告がありました。これに関しまして、委員の皆さまより、ご意見やご質問がございましたら、お願い致します。</p>
A委員	<p>第2次計画の実績について。行政と社会福祉協議会の実績値が100に近い数字となっている。地区別で独自に地域の必要性を話し合い、目標を立てて具体的な行動に移す流れの中で、達成率は地区によって違うと思う。時代の流れのなかで、いろいろ危惧される事態が発生しており、なかなかできないというのが実態。行政側はやることをやって、問題はその後に行ったからどうなったのかという部分を教えてもらいたい。</p>
事務局	<p>第2期の実績、市と社会福祉協議会の目標の達成率は高くなった。それが、どのようにつながったのかが必要なこと。この計画は作って終わりではない。この計画の最終目的は、地域の住民の方たちの福祉に関する満足度の向上、住民それぞれが充実した生活していける環境を作ること。まさに地域共生社会の実現が最終的な目標となる。そこを考えるとそこまで至っていないのではないかというのが、実績を取りまとめている中で非常に痛感した。どうしても行政の計画は目標を設定しがち。決してやったことは達成できたからゴールではないと考えている。</p> <p>今回策定する第3次計画では、できることを書いたものが計画ではないと考えている。夢でもいいから目指すべき方向性を導き出して、住民、行政、社会福祉協議会が同じ方向を向いて福祉の実現に向けて取り組んでいくことを計画に落とし込んでいけたらと考えている。</p>
A委員	<p>[了解]</p>
B委員	<p>第2次計画の基本目標、施策の体系のなかの基本目標と施策、重点プロジェクトの関係がよく理解できなかった。どういう視点でどういう関係があるのか説明してもらいたい。</p> <p>通常でいえば施策体系の中で、重点施策プロジェクトが出てくるのはわかるが、全然視点が違う形で、重点プロジェクトは地域版、それぞれの地域での施策を取り上げていると思うが、その関連性が見えないので説明してもらいたい。</p>
事務局	<p>社会福祉協議会では第1次計画も含め計画してきている。重点プロジェクト、基本目標は第1次計画から引き継いだもの。</p>

	<p>第1次計画は市域レベルの目標しかなく、地域の部分は具体的なものもないとは言わないものの、流れが見えてこなかった。第2次計画では、市域レベルの範囲ではなく、地区にも同じ目的を伝えていこうということで、重点的に取り組もうと地域を意識したもの。目標となる3つの柱の部分を各地区の懇話会で得た中で、ある程度分野を分けた中で取り組んでいきたいと策定した。</p> <p>第1次計画では市域、市の範囲全体。第2次の時にはそれを地区に広げていこうという作り方をした。</p> <p>第3次計画では、基本理念、大きな方向性はともにする一方、それぞれやる施策は違って来るだろうというところで、体系図をそれぞれ作る形で計画をもっていく。方向性や目標は共通してもそれぞれの施策について、根本的な地域福祉計画、住民の方たちを含めた行動計画では、違って来る形で第3次計画を作っていきたいと考えている。</p>
B委員	<p>趣旨は分かってきた。この重点プロジェクトは、地域のそれぞれの地区の声を聞いて、それぞれの取り組み目標の設定をしたその中身だと理解してもいいのか。それとも各地域で自ら設定したのか。</p>
事務局	<p>第1次計画の重点プロジェクトを地区へ引き継いだのが第2次計画。基本目標など、3つの柱が第1次計画の重点プロジェクトということで書いていた。これを地区に落とししている。地区目標という形で説明したが、第2次計画ではこの3つを大きな柱としてやりましょう、地区へ広げていきましょうということ。</p>
B委員	<p>[了解]</p>
委員長	<p>他にご意見等がないようでしたら、次に移ります。 (2) 協議事項の①及び②について、説明をお願いします。</p>
事務局	<p>[資料3-1、3-2説明]</p>
C委員	<p>説明の中で、自助、互助、共助の言葉があった。 自助に参加できない方はどのくらいいるのか。数字をつかんでいるのか。</p>
事務局	<p>自助、公助、共助、自助ができない方の割合について手元に数字はない。ひとつ言えるのは、目安になるのは、自治体には要支援者避難計画がある。要支援者が対象になると思っている。 福祉計画では、自助、共助、公助が柱になってきた。なぜ互助にしたのか。互助、助け合いの精神はこれまでもあった。当たり前のように隣の方を助ける、小さなコミュニティの中で困った人がいれば手を差し伸べるのが前提としてあった。ところが、横のつながりが明らかになくなっ</p>

	<p>てきている。</p> <p>東金市の人口は、5万7～8000人。2040年に団塊ジュニアが高齢になり、高齢化率も40%を超えてくる。人口も何もしなければ3万7000人から4万人を切るといわれている。この数は東金市ができた時とほぼ一緒。大きく変わるのが世帯構成の差。高齢者が非常に多くなってくる。</p> <p>その中で行政は、公助をしていかなければならない。いろいろな団体と一緒に共助ももちろんやっていかないといけないが、それだけでは難しい時代がすぐそこまで迫っている。どうしたらいいのかと考えたとき、人間の本来の行動理念であるお互いに助け合う互助、これに頼るしかない。それを計画に落とし込んでいくしかないのではないか。そのために、行政で何ができるか、社会福祉協議会が何をできるか、住民に何を願っているのか。そういったことを落とし込んでいく計画にしたいと考えている。</p>
C委員	<p>第3次計画に互助計画が入ってくる。説明の中にあつたコミュニティの希薄化、この言葉がすべてを物語っているのではなからうか。希薄化の中で、状況を求める人は往々にして経済問題、家族問題など何らかの問題を抱えている人が意外と多いのではないか。互助と称する部分で、こういった状況ができるかということも考えていただきたい。全国的に非常に難しい問題だと思われるが第3次計画の方に入れてもらえれば非常にありがたい。</p> <p>また、困った人たちのサークル、つながりはできないか。個人情報や人材などの制約があるのもわかっているが、場合によっては一番簡単な近所、向こう隣り3軒どうこうの話もあるが、そういった形で個人情報が侵されない、状況で何らかの連絡、おせっかいをしてもいいのでは。</p>
委員長	<p>事務局からの回答はよろしいですか。おっしゃったような互助の観点等を計画に反映するという点でよろしいでしょうか。</p>
委員C	<p>〔了解〕</p>
委員D	<p>アンケート調査に関して。2000件のアンケートで回収率30%。アンケート結果の中で、高齢者の福祉がトップになって、子育てが低かった。これは全体を反映するわけではない気がして。子育て世代のことが反映できているのか。</p>
事務局	<p>アンケート結果をみて、非常に子育ての希望が少ないと思った。回答する世代の回答数に左右されたと思う。一方で、おろそかにすればいいのかというのも違う。市長の就任当時から言われている子育てお手伝いナンバーワンを目指す施策もある。市としても最も重要だと思っている。市としましても子育て世代への支援といったものが重要なものと考えて</p>

<p>委員長</p>	<p>いる。 この福祉計画は福祉の総合計画ということで各政策、子育て計画だったら、子ども子育て支援事業計画、障がい者だったら障がい者福祉計画、介護だったら高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画、健康だったら健康プラン21と市の個別の計画がある。そういった個別の計画では、何を 目指しているのかを書いている。そこに書いてあるものを、それを体系 すれば、総合計画ではないかという意見もある。それでは意味がないと 考えている。それを踏まえたうえで、じゃあ何をやっていこうかという ものを第3次計画に載せていきたいと考えている。</p> <p>今回策定する計画の方向性、そして基本理念、基本方針についての説明 がございました。まだまだ細かな施策や事業については先の話として、 その前提となる大枠の話となっていくと思います。 ここまでの部分でご質問やご意見はございますか。</p> <p>ないようですので、委員の皆様にお諮りします。 おおむねこの記載内容で宜しいでしょうか。</p> <p>《賛成の拍手多数あり》 ありがとうございます。</p> <p>それでは事務局より続けて説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>【(2) 協議事項の③について事務局より説明】</p>
<p>委員E</p>	<p>地域福祉活動計画の中で「通いの場」の話が出ていた。住民主体の通い の場を広げていくと、そこでできた取り組みをいろいろなところに波及 して、例えば、通いの場でできたコミュニティが災害の時に誰かを助け るといった、基本方針の互助活動につながってくると考えている。東金 市内の通いの場の現状について、どのくらい住民主体でできていて、コ ロナでおそらく行われなかったと思うが、何地域で実施できているのか 教えていただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>「通いの場」という言葉について、生活支援体制整備事業の中の言葉で、 最近使われるようになったというのが私たちの認識。福祉協議会として は「ふれあいサロン」という形で、地域の方のミニデイサービスのよう な通いの場はこれまでもずっとあった。高齢者介護保険の制度の改正に よってこういった部分も地域で支え合っていこうと言言葉が変わってきた という認識。 社会福祉協議会の地区割では、市内を12地区に分けている。東金市には 区長会が11地区に分かれており、このうち1つの地区を小学校区という</p>

委員E	<p>ことで2つに分けたのが社会福祉協議会の地区。</p> <p>東金市の健康増進課、高齢者支援課で健康体操、ふれあい体操はほぼ全地区で住民主体で月1回程度の頻度で教室を開いている。中には通いやすい場所ということで公民館などでも開催している。運営に関しては、ボランティアグループによるものもあるので、20~30程度のそういった場があるのではないかと。社協でも年に1回、活動者の交流会、講習会、ヒントを得てもらえるような研修会を開いている。</p> <p>〔了解〕</p>
委員C	<p>基本目標2の施策方針に自立と社会参加への支援にということで生活困窮者への技術支援とある。支援センターでは、生活困窮者に対する紹介や問い合わせ等々やっており、私どもの所にも2件ほど紹介、問い合わせがあり、1名、仕事に就いてもらった。</p> <p>事業所の近所に住んでいる方について、ある程度状況を把握できる。登録してもらって、話をいただけるともうちょっと早く対応できるのではないかと。そういうことは可能か。</p>
事務局	<p>生活困窮者自立支援の関係について、市の事業としてふれあいセンターの2階でちば地域生活支援舎に委託する形で実施している。自立相談支援は、昨今非常に増えている。平成元年の実績と平成2年の実績で3倍増。自立相談でも600件を超える相談を受けている。コロナの状況が大きく影響していると思う。</p> <p>自立相談にはスピード感が必要。行政では、スピード感を持って対応できないところがある。だからこそ、民間事業者をお願いしている。これは、子どもの貧困対策でも同じことが言える。</p> <p>では、行政として何ができるのかということ、事業所への支援、働き動きやすい、活動化しやすい体制を行政が後ろ支えをしていく。そういった形を今後の形としてやっていけたらと考えている。そういった方が少なくなるようにタッグを組み合わせながら、事業展開できたらと考えている。</p>
委員C	<p>東金で事業をしている一員として、私どもに人材を紹介してもらうための登録システムは可能か。</p>
事務局	<p>高齢者施設の方たちと生活困窮を担当している社会福祉の担当者とのリンクは難しいところがある。第3次計画の基本目標2に重層的支援体制の整備がある。困難事例について体制を組んで、困った人たちを救う体制を作る事業になっている。これまで東金市で取り組んでいない事業。これまでは、それぞれの課が民間の方と協力しながら、その都度対応しており、なんとか円滑にできていた。一歩進んで、重層的支援体制整備の構築まで向けていけたらと考えている。市川委員の提案事業はそこで</p>

	<p>カバーできたらと考えている。市川委員の提案内容としては、老人介護の仕事の斡旋ということか。</p>
委員C	<p>介護事業には、送迎や掃除、洗濯業務などもある。専門業種以外にも仕事があると解釈いただきたい。</p>
事務局	<p>自立相談支援会議では、ハローワーク等と一緒に活動している。相談支援機関の方に情報を提供し、共有したい。</p>
委員B	<p>質問と意見がある。意見から言いたい。説明があった重点施策とその背景を文字で落として計画の中に明記してもらいたい。次回の会議までに作ってもらいたい。</p> <p>また、重点施策の施策1の子育ての支援の充実のなかに、子どもの貧困対策も重点施策に入れられないか検討いただきたい。</p> <p>質問は、3-3、施策1の新たな事業展開とあるが具体的な内容の説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>新たな事業展開について、枠内に国保、介護、健康増進の各分野が連携する、健康づくりのための新たな組織体系と書いてある。今、要は健康と介護予防これを一体的に連携して、介護予防あるいは医療の予防をしていく施策が始められようとしている。これを目標として、新たな事業の展開として入れさせていただいた。</p> <p>子どもの貧困対策について、子どもの貧困は増えており、行政だとスピード感を持って対応できないため、民間事業者に頼っている所があるが、今後さらにこの事業は重要、クローズアップされてくる事業。参考にしして検討させてもらいたい。</p>
委員B	<p>新たな事業の説明をしていただいたが、なかなかイメージができない。</p>
事務局	<p>「高齢者と介護の一体的予防事業」が事業名となる。国が令和6年度までに高齢者、健康、国民健康保険の中の高齢者医療に関する事業展開を一体的にしましょうと。年齢構成も介護は65歳から、後期高齢者は75歳からを一体的にして、ロコモ体操等そういった事業について各課を超えて取り組む事業が新たに始まる。そういったものが新たな事業の展開に入ってくる。</p>
委員B	<p>まだよく見えてこない。組織体系という言葉を使っている。組織体系というのは、事業の掴みとして組織体系という言葉を使っているのか。</p>
事務局	<p>事業の最終的な目標、健康な高齢者をつくるという大きな目的がある。そのために新たな組織を庁内に作って進めていくということで体系とい</p>

	う言葉を使った。
委員B	〔了解〕
委員A	教えてもらいたい。計画と活動計画がある。これはリンクしていると考えていいのか。表現的に、わかりづらいようになっている。
事務局	地域福祉計画と地域福祉活動計画はリンクするもの。施策の中で地域福祉計画の子の施策は活動計画のこの部分とリンクしていると考えていく。併せてSDGsのエッセンスも計画の中に入れていこうと考えている。
委員A	〔了解〕
委員A	委員Bから新たな事業の展開の質問があり、回答で庁内、行政の中で枠組みを作っていくと。また、自立支援相談の説明で、行政は動きが遅いから民間にアウトソーシングしていくという話があった。行政は枠組みを明確にするのが必要かもしれないが、言葉の連携ではなく具体的な連携がこの地域に求められていいではないか。 事業というのは困ったところに発生するコミュニティビジネスであり、道徳の精神。人のために事業を起こし、自益を還元しながら自分の収益を上げていく。そういった意味で、民間の力と行政の行動がもっと一緒になるような、できるところできないところは出てくるかもしれないが、先駆けてやるのであればぜひ東金市で地域の企業力を生かした、福祉施策、そういったものをイメージさせるようなところを、これからの細かい部分になると思うが、書き込んでもらいたい。
事務局	まさにおっしゃる通りだと思う。何かしら問題がある、課題があるからそこに行動が起こる。民間からムーブメントが起こっていくと、事業になっていきやすい。では、行政にできることはそれをフォローアップしていくこと。お金を作ってではなく、そこを真摯に向き合って、そこをフォローして共に進めていくことがこれからの福祉にはますます必要になる。そういったことを含めた計画づくりをしていきたい。
委員長	それでは、説明のあった資料3-3、3-4政策の体系について、皆さまにお諮りしたい。意義がなければ賛同いただきたい。
委員一同	〔異議なし、委員全員了承〕 〔司会を事務局へ〕
事務局	〔事務連絡〕今後の日程の説明及び報酬について

	〔閉会〕
--	------